

コミュニティ・スクール（CS）だより

2025.09.16
Vol.49

名張市教育委員会事務局発行

朝夕に秋の気配が感じられるようになりました。これから学校や地域の文化・体育的行事が行われる季節です。今年度の夏季休業期間中も「子どもたちのために」と学校運営協議会で熟議されたことを生かし、地域学校協働活動と連携しながら活動を進めている学校、地域が多くありました。今号では、その内容と、6月に行われた「小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会 講演会」の内容や参加者の声をお伝えします。

第1回小中一貫コミュニティ・スクール推進協議会 講演会開催



昨年度に引き続き、栃木県地域政策課社会教育指導員及び文部科学省CSアドバイザーの鈴木廣志さんにお越しいただき、「コミュニティ・スクールの可能性パートII～CSと地域学校協働活動の一体的推進に向けて～」という演題でご講演をいただき、推進協議会委員及び各校の学校運営協議会委員や教職員等、ご講演の中で参加者同士が意見交流をしました。

昨年はCSの充実に向けて、学校運営協議会を活性化させるためには学校、保護者、地域がどんな意識をもって参加、参画すればよいのかということを学ばせていただきました。今年は一歩前進し、地域学校協働活動とは、またCSと一体的に進めていくとはどういうことかというお話を他地域の先進的事例を挙げ、ご教授いただきました。



～参加者アンケートから～

参加された皆さんが様々なCSの取組や、地域学校協働活動を展開されている中で、今回の講演会の内容を地域の子どものために、どう生かそうかと思案してくださっている様子が講演会中での話し合いや、その後のアンケートからも伝わってきます。



～「うちの学校」自慢～
グループ討議の様子

「学校教育と社会教育の往還」という言葉が一番印象に残っています。この意識を持つことで、皆が自分事として、子どもたちや学校・地域に関わっていくことができると感じました。

「大人の学びにつながっていく」という鈴木先生の言葉が印象に残っています。CSを通じて地域が繋がればと思います。



名張市でも…

CSと地域学校協働活動を一体的に進めています！

本市では、すでにCSと地域学校協働活動が連携・協働して、子どもの学習支援や居場所づくり、地域行事への参画・運営など、子どもの学びや成長について議論し、取組を進めている学校・地域があります。そして「**地域学校協働活動推進員**」（※CSだよりvol.48の「『地域学校協働活動推進員』とは？」もご覧ください）という**学校と地域をつなぐコーディネーターの役割**をしてくださる方もいます。

その役割を明確化しようと、今年度の5月より地域学校協働活動推進員の委嘱をすることになりました。現在は4校区で5人の委嘱ですが、地域や学校と相談をしていく中で、順次進めていきます。

市内CSの取組より

1学期から夏休み中に行われた各学校運営協議会では、各校で学校・家庭・地域がめざす子ども像を共有し、育ちに関わる当事者として学校経営方針の承認、学校課題の共有化、教職員との熟議や懇談、子どもの学校運営協議会への参加など、目的や意図に応じて会議の持ち方が工夫されていました。一部ご紹介します。

赤目中学校



赤目中学校では、「地域と学校の連携について思いを伝え合う」ことをテーマに多くの教職員が参加し、委員と懇談を行いました。

桔梗が丘中学校



桔梗が丘中学校では、学校課題を教職員と委員が共有し、学校と地域が協働してできることはないかを話し合いました。

名張中学校



名張中学校では、「子どもを主役としたこれからの学校支援の在り方について」をテーマに、委員や学校支援ボランティア、教職員が熟議を行いました。

3校とも委員と教職員がめざす**子どもの姿を共有**しながら、CSを進めよう取り組んでいます。